原発の危険性を考える No. 238 2023年10月30日発行

宝塚の会ニュース

665-0025 宝塚市ゆずり葉台2-8-19 田中方 Tel：0797-74-6091 郵便振替 01150-8-61089

福井県の原発は関西の私たちの問題です
福井の声を聞こう

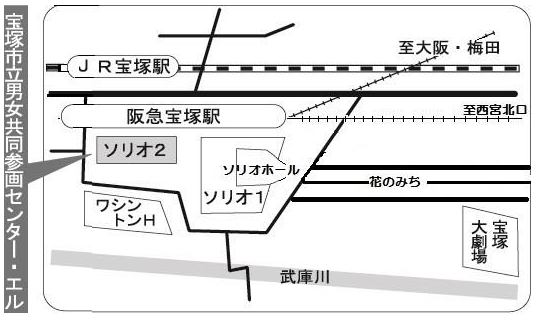
2023年11月25日（土）14:00～16:30

宝塚市立男女共同参画センター1AB

（阪急・ＪＲ宝塚駅下車　ソリオ２　4F）

講師：石地 優さん

安全なふる里を大切にする会（若狭町）代表



2011年の東電福島第一原発の事故で、原発はとても危険なものだと分かりました。しかしながら、事故から12年、破滅的被害をかろうじて免れたことの記憶が薄れつつあります。それに乗じて政府と電力会社は原発をどんどん再稼働させることにしてしまいました。

関西電力は40年を超える老朽原発を動かして福井県の原発から阪神間に送電しています。電力自由化で再生可能エネルギー中心の新電力会社を選んだとしても、福井の原発が再稼働すれば、事故の可能性、核のゴミの増加、労働者の被曝などの問題は私たちと無縁ではないのです。

それに加えて、福井に住む方々が危険と隣り合わせの生活を強いられていることを忘れてはなりません。原発立地県に住みながら何十年も脱原発活動を続けてこられた石地優さんは、「日々、原発が事故を起こすのではないかと、気が気でない」と言われます。

石地さんには、原発の技術面のお話ではなく、福井の原発がどのような歴史をたどり、どんな事故（電力会社は事象と言い換えても！）を起こしてきたのか、原発の存在が住民の暮しや人間関係にどのような影響を及ぼすのか、原発立地県の福井でどのように反対運動を展開してこられたかを話していただきます。また、関西の住民への呼びかけをお聞かせ願いたいと思っています。

原発についていっしょに考えましょう。ご参加お待ちしています。

Zoom配信します。遠方の方はZoomでご参加ください。

申込み： akikkoskmtnk@nifty.com　（受付は11月24日午前中まで）

会場・Zoom参加ともに無料　　当日参加も歓迎！

宝塚市立男女共同参画センター　2023年度市民企画支援事業

原発はなぜなくさなければならないか

ー2023.7.9　木原壮林氏講演　神戸市立婦人会館

原発に関心を持ち出してもう何年にもなる。（違った～何十年だ。トホホ…）チェルノブイリ事故が起きた 1986 年、その後に私が出会った反原発運動の合言葉は「チェルノブイリでおしまいに」だった。あれから 37 年、ウクライナ問題でチェルノブイリの言い方もチョルノービリになった。‘86 年でおしまいどころか、福島事故が起きてしまった。こんな悲惨なことが起きてやっと日本の政策も変わるかと思いきや、事態は逆の方向にある。情けない現状に、どうやって自分たちを奮い立たせるかかが課題になってしまった。でも、原発がどれだけ罪作りかを知っている私たちだからこそ、知らない人に伝えなければならないと思う。そういう意味では今回の講演は、その罪深さを再認識させてくれるものだった。

◎原発は現在の科学技術で制御できない。

・事故を起こせば農地、海、職場、学校、生活基盤を根底から奪い去ってしまう。
・震災関連死の数は福島県が認定しただけでも 2,300 人
・事故の原子炉内部は高放射線のために近寄れず溶け落ちた核燃料の取り出しの目途立たず。
・事故から生まれた汚染水は溜まり続け、国はそれを海に流そうとしている。
・運転すれば生まれる放射性廃棄物は処分の方法がなく、子々孫々まで負の遺産となる。
　原発の核燃料を永久に使用することは出来ず、一定期間燃焼させると新燃料と交換しなければならず使用済み核燃料が貯まっていく。（2020 年の時点で 18,000 トン）
・戦争になれば格好の攻撃目標になる。
・原発は老朽化すると重大事故の確率が急増する。
　老朽化に伴う配管の金属疲労、腐食、減肉（配管の厚みの減少）⇒2022 年 3 月高浜 3 号機で伝熱管の外側が壊れて 57%も減肉、損傷していることが発見された。
・監視するはずの原子力規制委員会も関電の老朽原発の運転を認可するなど無責任体制
・原発の過酷事故が起きても避難は不可能
　政府や自治体は事故を想定した避難訓練を行っている。事故の可能性を認めているからだが、単に避難行動だけの訓練で、事故が起きれば住民全員が何年何十年も故郷を奪われることをあえて無視している。

◎原発推進に暴走する岸田政権

岸田政権は 2023 年 3 月の通常国会で原発運転期間が 60 年を超えて運転できる法律を作った。日本は太陽光にも風にも水にも地熱にも恵まれている。先見の明がある政権が原発に費やされた膨大な税金や電気料金を、自然エネルギーを利用する電源、大容量の蓄電池、省エネ機器の開発と普及に回していたら、今頃、核燃料や化石燃料など必要のない社会を実現し、世界をリードしていたであろう。岸田政権の暴走は、歴代政権が事故の教訓を生かさず原発維持にこだわり、自然エネルギーへの切り替えを怠った結末と言えよう。

◎政府は電力需給のひっ迫を喧伝し、原発の推進に躍起だが、日常的には電気は足りている。

一時的にひっ迫しても節電によって乗り切れる。（2022 年３月東北・東京エリアで地震による発電所の停止と寒波でひっ迫が発生したが、需要の大きな 17 時台の時間帯で節電を行い乗り切れた。）国民一人が 100W 節電すれば原発 10 基以上の電力需要を抑制できる。「欲を少なくし、足るを知り」、質素で豊かな生活を！原発がだめなら次のエネルギーをではなく、便利さ優先の考えを改めよう！

以上、講演内容を当日のレジュメとメモからまとめました。本気でやればできる原発なしの社会。次の世代に負の遺産を残す原発を稼働させることに政治家は責任を感じないのかと思うが、彼らの辞書には「責任」という言葉がない。だから、いつまでも原発は稼働し、原発ムラと政府と電力会社が暗躍する。さて、これを何とかするには、選挙でましな人を選ぶ。原発立地の首長が原発にＮＯ！という。原発関連裁判で裁判長が原発を止める判決を出す。などなど

木原壮林さんは若狭の原発で何年も運動をしてきて、現地の人の意識も変化してきていると話していた。現地は現地の利害があって、それに今までは阻まれていたが、その構造はおかしいと気づく人が生まれつつあるのかもしれない。関電のうそっぱち体質に原発立地の人たちもうんざりし、次の世代のことを考え、新しい方向を見つめ直しているのかもしれない。
都会に住む私たちも新しい方向を見つけ、広めなければならないと思った。

講演の後は元町センター街をパレード。今回は「集会」も「お話し会」、「デモ」も「パレード」とやわらかく表現、ホンの少しだけれど若い家族の参加もあった。アーケードにたどり着くまでに雨が降り出し、ちょっと難儀したものの、替え歌あり鳴り物ありで、賑やかに歩いた。伝えていく工夫をしないとね。　（辰野純子）

10・26 反原子力デーに関西電力へ原発即刻停止の申入れ

10 月 26 日は 1963 年日本原子力研究所の動力試験炉において日本で初めて原子力発電に成功した日で、原発の推進派は原子力の日と定めています。私たち原発に反対する者は、そんな記念日なんか認めない！「反原子力デー」として毎年関西電力に申入れを行っています。GENKI の会も『未来世代に再生可能エネルギーを贈りましょう』と題して　・原発の即刻停止・これ以上核のゴミを増やさない・廃炉研究を進める・再生可能エネルギーの推進を中心課題とする　などの申入れを提出しました。社長宛ですが、社長は無理として原子力広報部が受け取るべきところ、いろいろ突っ込まれると困るので出てきません。そんな自信もプライドもない会社が原発を運転しているのです。（あ）

時代遅れの原発をなお進める岸田首相は何も考えていない

―2023.9.18　大島堅一氏講演

「原発・核燃は時代おくれだ」と題した龍谷大学の大島堅一氏の講演、原発の問題点が列挙され、日本の無策ぶりにうんざりという気持ちになったが、質疑応答の時間で、あの「原発を止めた裁判長」の樋口英明氏が手を挙げて質問した。「私は岸田首相の頭の中がわからない。原発を絶対に攻撃しないとテロリストを信頼しているのか、経済界も萩生田議員も反対しているのに、なぜ、なお原発を進めるのか。」と嘆きに満ちた意見を言われ、大島氏も「ちゃんと課題に向き合わないといけないのにそれがなされず、国会に参考人として行ったが誰も何も考えていないことがわかった」と答えた。それが現実なのだとわかっていても愕然とする。大島氏は、「岸田首相は原発推進、延命政策を新たに作り出した。電力価格高騰と電力供給ひっ迫は原発と直接関係がない。ウクライナ戦争は原発のリスクを改めて示した。原子力と無責任と不可視の構造を無くすことが必要。原発ゼロに向けた市民の取り組みが試されている。」と述べた。

次に、福島県いわき市から家族で自主避難をした鴨下美和さんの話があった。「原発事故は身も心も生活も破壊する」のタイトル通り、事故当時８歳だった息子さんは今 20 歳で、彼が今年 6 月に行われた原発被害東京訴訟の裁判での意見陳述からそのつらさを知り、心が痛んだ。「…僕へのいじめが始まる直前の週末に、東電が避難者への百万円の賠償金の仮払いを発表し（中略）かわいそうな避難者だった僕は「百万円もらったズルい奴」に変わった。賠償金をもらうことはズルいことではないが、区域外避難者の僕らには賠償金の支給はない。（中略）僕が一番つらかったのは、人々が分断されて平和に暮らせなくされてしまったこと。（中略）僕らが受けた甚大な被害に東電は正面から向きあったことがあるか。口封じのような賠償金を握らせてきたことが差別や分断につながって幾重にも苦しめてきたことを深く反省してほしい。」

鴨下さんのような自主避難者は「ないものを怖がるヒステリックな人」と言われ、総務省のサイトには「風評加害者」という言葉があるそうだ。今なお、避難者であることを隠して生活している人が大勢いる。原発事故被害者東京訴訟へのメッセージを！と呼びかけがあった。

次に原子力行政を問い直す宗教者の会の内藤新吾氏が登壇。「原発と核問題」と題し、日本の核武装について述べた。日本が原発をやめない理由は核兵器を持ちたいからという構図は以前から知っていたが、そこに到ってないのは憲法９条の精神があることを言われ、改憲をさせてはいけないと改めて思った。六ヶ所村の核燃サイクル工場は未だ稼働していないが、それでもなお核燃サイクルに固執するのは原子力政策の肝（キモ）だからである。高速増殖炉もんじゅは廃炉が決定しているが、ほとぼりが冷めるのを待ち高速炉開発会議を新設したと言う。

政府と財界は核武装というゴールを目指して９条改悪も狙ってきた。しかし、まだ完成には至っていない再処理工場を廃止にさせればゴールを阻止できる。全国の原発も使用済み核燃料が満杯になれば動かなくなる。現在、原子力行政を問い直す宗教者の会が母体となり、核燃サイクル事業廃止を求める裁判を行っている。「宗教者核燃裁判」で検索すれば出てくる。

この原稿を書くにあたり、核燃サイクルの今の様子を調べてみたが、「来年 2024 年上期には使用済み核燃料再処理工場が完成する目標で工事を進めており、再処理したのち、ウラン、プルトニウムを取り出し MOX 燃料にする燃料工場も 2024 年上期に完成予定」と HP には勇ましく（？）書いていた。絵に描いた餅とはまさにこのことだ。

今行われている汚染水放出。これを進めたいのは六ヶ所村の再処理工場が稼働した時に、汚染水を放出しやすいように前例を作っておきたいからだが、このことをメディアは何も言わない。うそっぱちだらけの原発と頭からっぽの国のリーダー。どうなるのか日本。　（辰野純子）

「脱成長」「諦めない」　―国のビジョンはどうあるべきか―

1973 年のトイレットペーパーの奪い合いが起きた混乱は、第四次中東戦争の勃発で、石油輸出国機構が原油価格を大幅に引き上げたことから起こった。「オイルショックから 50 年」と題した記事(10/16 朝日)を興味深く読んだ。同じオイルショックを経験したデンマークは、この 50 年でエネルギー構造を転換させた。再生可能エネルギーで世界をリードするという国家ビジョンが明確だったことがそうさせたと言う。1972 年の日本のエネルギー自給率はデンマークより多かったのに、2022 年には日本の 13%に対してデンマークの自給率は 60%。この違いはどこからくるのかを環境問題に取り組むニールセン北村朋子氏は「デンマークでは、情報が徹底的に共有され、最適な解決策にたどり着くまで議論する。（中略）日本は戦後復興を果たして経済大国となった後、国としてのビジョンを失った」と述べている。

日本は福島事故を経験してもなお、原発再稼働をするのは国としてのビジョンのなさなのかと、延々と続く自民党政権の政治家の顔に妙に納得してしまい、ため息が出る。それでも、どこかに解決の糸口を見いだそうと、朝日新聞が開いた「朝日地球会議 2023」と称するオンラインで視聴ができるイベント（10/9～11）を見てみた。このイベントは多岐にわたるプログラムで、私が見たのは「地球沸騰？！～1.5 度上昇の世界　私たちはどう生きるか」というテーマ。国立環境研究所 江守正多氏、哲学者 斎藤幸平氏、そしてグレタさんに触発されて温暖化防止の活動をやるようになった大学生の中村涼夏氏が登壇。興味深かったのはやはり斎藤幸平氏の言う「脱成長」で、ヨーロッパでは広がりつつある考え方と発言していた。一部の車の所有者が道路を占拠する社会ではなく公共交通を優先した街づくりを研究しているバルセロナの例を挙げ、日本では SDGｓの掛け声だけで、気候変動はいまだに政治の主要課題になっていないと批判。また、経済成長を追及すること、利潤だけを求める社会ではシステムチェンジにはならないと述べた。中村氏は意見をすり合わせること、議論をすること、まずそこからで、そうしないと気候危機の問題だけでなく民主主義の危機になってしまう。江守氏はこの問題は 1.5°がだめでも 1.6 で止めるという思いが大切。諦めないことと発言。当たり前だけどまずそこからと思いながらオンラインイベントを聞き終えた。斎藤氏の言う「脱成長」は、我慢を強いる清貧の思想のように受け止められがちだが、海外では地球環境を守るためには経済成長をしないのが一番であるどころか、人々が豊かな生活をするためにこそ「脱成長」が必要といった議論が行われている。これからは一国の貧富や格差の問題に取り組むだけではダメで、地球規模で資本主義を見直していかなければならないと言っている。

斎藤氏が以前から主張している誰もが必要とする水道、電力、住宅、医療、教育などを共有財産にして無償もしくは安価に提供する「コモン」化。このことが市場経済に依存しない社会を創るという考え方には、今こそ大いに同感し、一刻も早く進めなければと思う。大学生の中村氏が言う意見をすり合わせ、議論すること。そして、諦めずに広めること。

今の世の中、賃金も上がらず暮らしにくいのは、社会が悪いのではなく、自己責任で自分が悪いと思う若者が多いと聞いたことがある。そうではなく国としてのビジョンがないまま今に至ってしまった結果だと若者に伝えたい。海外では脱成長が議論されているというのを聞いて日本でもやれないことではないと思った。最近の異常気象から感じる気候変動問題、本気を急いで示さなければこれから先とんでもないことになる。やめたらいいのにと思う大阪万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」。これを「脱成長のデザイン」として社会を転換していかなければと思う。そうしないと「未来はいのち輝く」になんてならない。　（辰野純子）

「山口県上関町の『中間貯蔵施設』計画を考える」

2023.10.8　神戸市立婦人会館

８月２日に中国電力から上関（かみのせき）町に使用済み核燃料の中間貯蔵施設に係る立地可能性調査の申し入れがあり、西哲夫町長は８月 18 日の上関町臨時町議会で中国電力の敷地内で、関西電力と共同で行う同施設建設調査を受け入れる決定を表明した。これを受けて「上関に原子力施設はいらない兵庫の会」が急遽結成され、「はんげんぱつ新聞」編集長の末田一秀さんを講師に招き、講演会が行われた。

末田さんは原発と放射性ごみの問題を簡潔にわかりやすく解説された。原発は原子炉内でウラン燃料が核分裂を起こしその熱で発電するが、やがて発電効率が悪化し、燃料交換が必要となる。使用済み燃料も高熱を発し続け水素爆発の危険があり３～５年は使用済み燃料プールで冷やし続ける必要がある。そのプールが満杯に近くなり、搬出先が必要になっている。使用済み燃料の中にあるプルトニウムを再利用するという「核燃料サイクル」構想から建設中の六ケ所再処理工場は 20 回以上も稼働が延期され稼働の目途が立たない。再処理でプルトニウムを取り出しても「高速増殖炉もんじゅ」は廃炉が決まっており行き場がない。これが核燃サイクルの破綻だ。しかし、原発だけは動かしたいので、溜まり続ける使用済み燃料問題を何が何でも解決する必要に迫られている。

関電は福井県に原発を再稼働させてもらう条件として、使用済み燃料を県外に持ち出すと約束した。関電は約束の期限を何度も延長し、現在の約束期限は 23 年末まで。運び出す先を見つけるべく、各所に働きかけてきたが、永久貯蔵になりかねない核のごみを引き受けるところはない。

そこで上関の西哲夫町長が手を挙げた。上関町は岩国基地の南西 40km にある、1974 年の朝ドラ「鳩子の海」の舞台となった美しい町。上関という地名は、かつて瀬戸内海の船の荷を検査するため、現在の山口県の、都に近いほうから「上関」「中関」「下関」という三つの番所が設置され、この「上関」が由来となっている。

41 年前の 1982 年に上関町に原発建設計画が持ち込まれて以降、町民は長きにわたって建設賛否で分断され、地域の人間関係も壊されてきた。しかし、2011 年の福島原発事故を受けて、建設工事は中断し再開の見通しも立たない中で、前町長の呼びかけで「原発に頼らない街づくり」が進んでいた。しかし西哲夫町長は、人口減少と中国地方で一番の高齢化率になっている町の財政苦境から、中国電力に経済的支援を打診し、立地調査から操業期間終了までの 50 年で３６０億円といわれる中間貯蔵施設誘致による交付金に目を付けたようだ。実は上関町は４年前から非公式に「中間貯蔵施設」の論議を重ね、2019 年と 2022 年に「中間貯蔵施設」に相当する東海第二原発の使用済み核燃料の『乾式キャスク貯蔵施設』を視察し、2021 年にはむつ市の中間貯蔵施設と六ケ所村の視察を行っていたことが分かり、二週間で判断したのではないことが分かった。中国電力は「単独での建設や運営が困難」なので関西電力と共同での建設が必要と説明している。

この講演で問われたのは、「生物多様性の見地から重要で保護すべき海域に指定されている上関になぜ関西電力の核のゴミを捨てるのか？」ということです。この日の講演を踏まえ、有志が10/22～23に上関町に出向き、現地の方と情報交換をし、上関町長に要請文、町議会議長に陳情書を提出したあと、中国電力（広島本社）地域共創本部に抗議文を手渡しました。
「中間貯蔵施設」につき「避難計画を案ずる関西連絡会」が作成したカラーリーフを同封しています。美しい風景と共に具体的な問題点が列挙されているので、皆様の理解に活用願います。（馬場）

その後の関西情報：10月10日、関電は福井県に「使用済み燃料対策ロードマップ」を提示しました。その内容は、六ケ所再処理工場のフル稼働やフランスへの搬出量積み増しや場所を特定しない中間貯蔵施設の計画など、全く具体性も実現性も持たない絵空事だが、一番驚いたのは福井県内原発サイトでの乾式貯蔵まで検討するという暴走振り。窮地に陥って何でもありの勝手放題。
唯一名前が挙がっている上関での中間貯蔵計画を進めてはならじと、「上関に原子力施設はいらない兵庫の会」は10月26日関西電力に抗議文を提出し、この計画から撤退するよう訴えました。
・☆・☆・☆・☆・☆・☆・☆・☆・☆・☆・☆・

関西電力カルテル株主代表訴訟

2023年10月12日提訴

また裁判か…　穏やかな老後を待ち望んでいるのに、なんの因果か、またまた関電がしでかしてくれたので、看過する訳にはいかず大阪地裁までの遠征と相成りました。こんなに裁判が多い一番の理由は会社に自浄能力がないからだが、その他にも、以前は関電が市民の前に出て来て説明責任を果たすことを厭わず、一応は関西のトップ企業として紳士的態度を保持していたのが、この頃は悪事がバレないかと洞穴に籠って出て来なくなったから。裁判をするといろいろな情報が公開されるし、裁判のたびに記者会見をするので、マスコミ報道に繋がるという利点もあると思う。それに脱原発弁護団全国連絡会の強力な協力があるのも大きい。

今回の裁判は、カルテル（談合）問題。

電力自由化で、他電力の縄張りを荒らす仁義なき戦いを展開した関電ですが、結局は値下げ競争に音を上げて、中国電力・九州電力・中部電力に声をかけ電気の値段の談合を持ち掛け、競争を止めることにした。元々が地域独占の会社運営、総括原価方式で電気の値段を決めていた電力会社が、自由競争の原理を無視して、昔返りの高め電気代設定を大手の共謀でやってしまった。

しかし、この談合の事実が漏れて、どこからか（わからないらしい）関電に「カルテルをやってること知っているゾ」との通告があり、暴露されるとマズイと一部の重役が相談して、リーニエンシー・システム（公正取引委員会が察知して談合調査を始めないうちに自首すること。早いほど高割合で課徴金が免除される）を利用して公取に申し出た。関電が持ちかけた談合なのに、関電が一番に自首して、課徴金はゼロ。他電力は何百億円かの課徴金を納めることになり、ハラワタが煮えくりかえる思いだったろう。

ただ、この経緯からすると、関電は課徴金を免れて会社に損はさせていないので、裁判に持ち込

むのは難しいかも。道義的には一番悪い奴が得をするというケシカラン成り行きではあるが。

そこで、脱原発弁護団はひとひねり考えて、この談合を訴訟に持ち込む理由をほじくり出した。・カルテルに関与又は黙認した過失（独占禁止法に反し、関電が法令を遵守すべきであるという善管義務を怠った）　・カルテル防止に関する内部統御システム構築義務違反　・カルテルを実施していた時期は複数の不正と重なり、コンプライアンスを重視すべき重役がむしろ悪事を働いた　という任務懈怠責任（にんむけたいせきにん→取締役の会社に対する責任のこと）などで当時の重役 12 名を被告として訴えた。

損害としては ・談合の社内調査費用がかかった ・談合をしたという咎（とが）で、公共団体からの契約破棄、または入札不可とされた分の損害 ・カルテルのせいで本来の電気代より高い電気代が設定されたために契約者に対して賠償責務を負うとの点が挙げられ、３億５千万円余と算定した。

関電の損害は抜け駆けをしたせいで多額ではありませんが、もっと高額の損害を被った他電力の株主も訴訟を提起した、同時多発裁判です。

ホンマにどうしようもない関電ですが、株主としてはよりよい会社に改善するために、今一度立ち上がり、企業風土を変えていかなくてはなりませぬ。株主の権利弁護団の弁護士さんも「今時珍しいロコツな談合。ゼネコンでは部長級がやることを、電力会社は重役が持ちかけて相談している。呆れるばかりだ」と言っておられた。

裁判の説明をしてくださった河合弁護士は「脱原発弁護団全国連絡会は鉄の団結。必ずや粘り強く闘いぬく所存です。この頃、脱原発運動に若者が参加しないと嘆く面々が多いが、若者はヒマも金も余裕もない。我々年寄りがあと 20 年・30 年頑張れば世直しができる！　オレ達が社会を変えて、若者に安全な世の中を手渡してやろうではないですか！！　原発を止めて再エネを推進して、CO_2 削減を！」と意気軒高。

私は「あと 20 年、30 年って！？」と絶句。大阪地裁へは、うちからバス乗って、電車乗って、乗り換えて、やっと阪急梅田に着いて、そこからテクテク歩きで約 20 分。恰好のウォーキング・コースやって？　そんな～　　（これ以上の不祥事が出てこないことを願う株主　田中あ）

・☆・☆・☆・☆・☆・☆・☆・☆・☆・☆・☆・☆・

10/21 福井県原子力防災訓練の監視行動に参加しました

１０月２０日、２１日の二日間にわたり福井県原子力総合防災訓練が行われました。２０日は国や県及び市町の連絡網の訓練。２１日は住民の避難訓練です。国の計画では事故レベルにより県内避難と、近畿圏への広域避難に区分されます。広域避難計画では高浜町の方々の避難先は宝塚市・猪名川町・三田市と定められています。また事故発生地点から５㎞圏を PAZ、３０㎞圏を UPZ と定め、国の避難計画では避難方法も区分されています。

今回は高浜原発で事故が起こる想定で、高浜町、おおい町などが避難対象となり、おおい町の方々は県内避難として敦賀市総合運動公園へ、高浜町の方々が広域避難として町内で集合し自家用車、バスで宝塚市総合福祉センターへ避難する計画です。高浜原発の立地する岬の先の住民はヘリや船

舶で避難する訓練です。避難の過程で安定ヨウ素剤の服用、スクリーニング（車や人の放射能汚染の有無や汚染レベルを測定し記録証の交付を行うこと）、除染、除染効果測定が行われます。

この日は敦賀市総合運動公園と、宝塚への避難の途中のあやべ球場でスクリーニングが行われる計画で、「避難計画を案ずる関西連絡会」はその両方で監視行動をすることにし、私は５名であやべ球場でのスクリーニング監視を行いました。実は同様の想定の訓練は２０１６年にも実施され、私もその際の監視行動に参加しただけに、避難計画の改善も期待していました。

避難ルートの舞鶴若狭道綾部 PA からあやべ球場に出る鉄製ゲート幅が5m しかなく、幅 2.5m の大型バスは勿論、幅 1.8m 前後の自家用車でさえ対面通行できず、あやべ球場に入るには出る車を止める必要があり、数千台から万を超える車がスクリーニングを受けようとすると完全にキャパオーバー。前回はゲートから先の舗装路は 1 本道だったのがスクリーニングを受け、退出するループ状の動線が設けられる改善がありました。しかし、この日の自家用車９台、バス２台では問題なくても、「100 台も来れば破綻する」というのが、見学していた高速道路管理者や消防職員の感想です。ゲートが狭いので避難車両が通って汚染された路面を、除染後の車両が通ることも問題です。最大の問題は、見学していた消防職員もスクリーニングを担当していた放射能技師会のスタッフも一様に疑問を持つ「車両の除染はタイヤの側面をウエットティッシュで拭くだけで効果がある」という国のマニュアルなのです。彼らは細かく深い溝を持つ冬用タイヤの特性を熟知しており、タイヤの接地面や車両の下面を流水で除染するべきだと考えています。事実 2016 年の訓練では、自衛隊の高圧洗浄装置で除染し、除染後の汚染水は容器に回収していました。しかし、1 台の除染に 10 分以上かかり、汚染水の回収に必要な容器も膨大になり、大量避難には無理だと判断したのでしょう。個々のスタッフは口々に「一人でも多くの人を避難させることが大事」と言います。しかし、丁寧に行ったスクリーニングの記録が無ければ被ばく後遺症に対する証拠にならず、除染されない車両は汚染拡散することになり、宝塚住民も避難受け入れに難色を示すでしょう。避難計画が不備としてニューヨークのロングアイランド原発は廃炉を決定しました。日本では？

計画詳細は「令和５年度 福井県原子力総合防災訓練の実施について」で検索願います。（馬場）

お知らせ

☆ 輝け！憲法　平和といのちと人権を　　おおさか総がかり集会
11/3（金・休）集会 13:45～　扇町公園　集会後 市民パレード
主催：おおさか総がかり行動実行委員会　06-6352-2923

☆ それでもあなたは原発をえらびますか？　第 12 回さようなら原発 1000 人集会
11/12（日）14:00～16:30　いたみホール
主催：第 12 回さようなら原発 1000 人集会実行委員会　前売予約：0797-74-6091

☆ 高作先生と学ぶ会　「辺野古訴訟・最高裁判決の批判的検討」
11/18（土）13:30～16:30　神戸学生青年センター・ウエスト 100　1Ｆ会議室Ａ
主催：（公財）神戸学生青年センター＆高作先生と学ぶ会　078-891-3018

☆ 幸福度世界一のフィンランドに学ぶ
11/19（日）14:00～　尼崎女性センター・トレピエ
主催：市民の力で社会を変えよう連続市民講座　090-5132-0028

☆ 再処理止めよう！！関西集会
11/25（土）12:40～　ドーンセンター　１Ｆ パフォーマンススペース
主催：脱原発政策実現全国ネットワーク関西・福井ブロック　072-843-1904

☆ 子ども脱被ばく裁判　勝利判決を！～無用な被ばくをさせた国・県の責任を問う～
12/2（土）13:30～　クロスパル 5F 視聴覚室
共催:「子ども脱被ばく裁判•支える会西日本」「子ども脱被ばく裁判の会」 090-1679-3085

☆ とめよう！　原発依存社会への暴走　１万人集会
12/3（日）集会：13:00～ うつぼ公園　デモ：14:30～
主催：老朽原発うごかすな！実行委員会　090-1965-7102

☆ 新・関電株主代表訴訟（土砂処分高値発注等）　第１回口頭弁論
12/8（木）大阪地裁前ミニ集会：14:30　第１回口頭弁論：15:30　終了後記者会見
主催：関電株主代表訴訟団/関電の原発不正還流を告発する会　080-5342-4819

☆ ～フクシマ これからもいっしょに　原発事故被害者を訪ねて～「救援関西」発足 32 年の集い
12/10（日）13:30～16:30　大阪市立総合生涯学習センター　第１研修室
主催：チェルノブイリ・バクシャ救援関西　0797-74-6091

☆ 日本を戦争する国にさせない、核兵器廃絶　平和集会
12/17（日）13:15～15:45　千里北センタービル3F・パフォーマンスホール
主催：12・17 平和集会実行委員会　090-5662-2351